

■2008年度 始動！

3月中旬より桜の便りが聞かれ、例年より早い春を迎えました。季節は新緑の候へ。新年度を迎え、会員の皆様におかれましては「新鮮さ」と「忙しさ」の両方を感じられているのではないのでしょうか。東京支部は新たに72名の会員をお迎えし、会員数400名を超えました。大勢の会員の皆様の知恵や力を上手につなげていくことで、支部の活動をより活性化したものにできればと考えております。本年度もご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

今回のニュースレター(NL)では、“2008年度支部総会”ならびに“第一回資格更新研修会”についてご案内させていただきます。昨年度より、資格更新の手続きも開始されました。「あれー。更新ポイント不足!」とならないよう・・・研修会へのご参加お待ちしております。また本号では、東京支部で担当している「文京区の巡回相談」の経過、ならびに「特別支援教育の用語」を掲載しました。会員同士の情報交換、共通理解を図るための“NL”の活用も徐々に進めていきたいと思っております。

■目次

1. 2008年度「東京支部総会」および「第1回資格更新研修会」のご案内
2. 所属・住所変更について
3. 文京区特別支援教育推進のための巡回相談報告
4. 2008年度 第一回 日本臨床発達心理士東京支部役員会議事録
5. 特別支援教育の用語

■1. 2008年度「東京支部総会」および「第1回資格更新研修会」のご案内

下記の要領にて、2008年度「東京支部総会」および「第1回資格更新研修会」を開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

- 日時: 2008年6月8日(日) 9:30~16:30
- 場所: 筑波大学 東京(大塚)キャンパス(東京都文京区大塚 3-29-1)  
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車 徒歩3分(会場案内図参照)
- 研修会の内容 (内容等の詳細は、別紙“2008年度 第1回資格更新研修会のご案内”をご参照ください。)

研修会1 午前の部(9:30~12:30) A区分研修 1ポイント

研修テーマ: ディスクレシアのアセスメントと指導について  
講 師: 大石敬子(明治学院大学)

研修会2 午後の部(14:00~16:30) A区分研修 0.5ポイント

研修テーマ: 発達障害への薬物療法  
講 師: 日原信彦(横浜市東部地域療育センター所長・児童精神科医)

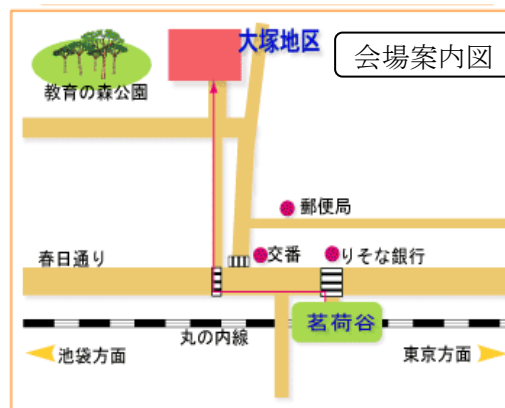
●総会の次第

総会 (12:30~13:00)

- (1) 報告事項: 2007年度活動報告 他
- (2) 審議事項: 2008年度活動計画, 2007年度予算
- (3) その他

当日、「東京支部総会」をご欠席される方は、別紙の委任状をお送りください。

総会は会員の4分の1以上の出席(委任状を含む)をもって成立いたします。定足数に達する上で、皆様のご出席もしくは委任状が必要となりますので、ご留意いただけますようお願い申し上げます。



## ■2. 所属・住所変更について

新年度を迎え、異動や住居変更が生じた方は、諸変更手続き用紙に必要変更事項をご記入の上、臨床発達心理士会事務局までご連絡下さい。諸変更届け用紙は、日本臨床発達心理士会ホームページ([http://www.jocdo.jp/org2/org2\\_04.html](http://www.jocdo.jp/org2/org2_04.html))よりダウンロードしてお使い下さい。

## ■3. 文京区特別支援教育推進のための巡回相談報告 報告者:松村裕美 (両国発達支援センター あんと)

文京区では、区内の小学校20校、中学校のすべてで、東京支部の特別支援教育に関する研修を受けた臨床発達心理士が巡回相談を行っています。平成20年度は19名の臨床発達心理士がそれぞれの担当校で活動しています。

巡回相談は各校に年4回派遣されています。1回は3時間で、その内容は学校側にご要望に応える形で行っています。授業観察・担任や校内委員会への助言、校内研修会の講師、保護者対象の研修会の講師などが、主な内容です。限られた機会、限られた時間の中で、児童・生徒のアセスメントをし、学校側に助言をすることが求められます。このようなニーズに応えるため、年2回～3回、巡回相談員で集まり、指導主事より、文京区の特別支援教育事業についてご説明いただいたり、巡回相談同士で、巡回相談の進め方について、話し合うなどの機会を設けています。

文京区では、平成18年度から全国で巡回相談が実施されるようになりました。事業も定着し、学校側からも「巡回相談の機会をもっと増やしてほしい」との要望がでているようです。このような期待に応えるためにも、臨床発達心理士として、より一層専門性を高めていくことが必要と考えています。

## ■4. 2008 年度 第一回 日本臨床発達心理士東京支部役員会議事録

日時:2008年4月6日(日) 10:00～12:00

場所:筑波大学大塚キャンパス

出席者:竹谷、須田、宇賀神、太田、田坂、菊池、仲村、松村、田島、大倉、市川、小野、澤、藤野、澤

### I. 報告・確認事項

1. 都立永福学園への臨床発達心理士の配置について報告があった。
2. 都立高等学校巡回相談について報告があった。
3. 文京区巡回相談について報告があった。

### II. 審議事項

1. 国際ワークショップへの協力について協議を行った。
2. 2008年度第一回資格更新研修会を6月8日にすることとし、講師ならびに実施内容について検討した。なお、第二回研修会については、10月11もしくは11月頃とし、内容について意見交換を行った。
3. 他支部との合同研修会について協議を行った。
4. 研修会、ネットワーキングについて意見交換を行った。
5. 2007年度の会計報告及び2008年度予算について意見交換を行った。
6. 2008年度「東京支部総会」の次第について原案通り承認した。
7. ニュースレター発行、内容について協議を行った。
8. 支部および役員会の体制について意見交換した。

以上

## ■5. 特別支援教育の用語

特別支援教育で使われている用語のいくつかについて、簡単に紹介します。

### <特別支援学校>

従来の盲・ろう・養護学校。障害の重複化や多様化を踏まえた障害種別にとられない学校の設置形態のこと。地域の特別支援教育のセンター的役割を担う\*1。

### <特別支援学級>

従来の特殊学級(東京都は心身障害学級と称していた)。小・中学校に設置されており、知的障害者、肢体不自由者、病弱・身体虚弱者、弱視者、難聴者、言語障害者、自閉症者を含む情緒障害者等を対象とした学級がある。

### <特別支援教室>

特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に対し、個々のニーズに応じた適切な教育を行うために小・中学校に設置する教室\*1。

### <固定学級>

特別支援学級の形態の一つ。固定学級の場合は、児童・生徒は、その学級に籍を置き、学習活動を行う。東京都には、区市町村により、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱(院内学級)、情緒障害を対象とした学級がある。

### <通級指導学級>

特別支援学級の形態の一つ。児童・生徒は、通常の学級に在籍し、学習活動の一部を自校又は他校(小・中学校)に設置された通級指導学級ら通級する。東京都には、弱視、難聴、言語障害(小学校のみ)、情緒障害を対象とした学級がある。

### <校内委員会>

各学校で、全校的な支援体制を確立し、発達障害を含む傷害のある幼児児童生徒の実態把握や支援方策検討等を行う委員会\*2。

### <特別支援教育コーディネーター>

特別支援教育コーディネーターは、各学校における特別支援教育の推進のため、主に、校内委員会・校内研修の企画・運営、関係諸機関・学校との連絡・調整、保護者からの相談窓口などの役割を担う\*2。

### <特別支援教育支援員>

食事・排泄・教室移動の補助といった学校における日常生活上の介助や、LDの児童生徒に対する学習支援、ADHDの児童生徒に対する安全確保などの学習活動上のサポートを行う者\*3。

### <特別支援教育心理士>

都独自の事業。東京都が臨床発達心理士や特別支援教育士、学校心理士など、心理相談等の対応できる専門的な知識を有する者を特別支援教育心理士として委嘱する。特別支援教育心理士は、学校の要請に応じて都立高等学校等への巡回相談を行う。

\*1 文部科学省 平成15年「これからの特別支援教育の在り方(最終報告)」

\*2 文部科学省 平成19年「特別支援教育の推進について」(通知)

\*3 文部科学省 平成19年「特別支援教育支援員」を活用するために」